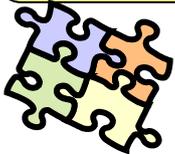


はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。
2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2011年10月1日発行

8月27日(土)から9月4日(日)に開催した「はもりあ四日市15周年記念事業」は、終盤の台風12号接近により、一部中止した事業もありましたが、企画運営委員の方々をはじめ、たくさんの市民のみなさまのご協力のおかげで、無事に終えることができました。ありがとうございました。



15周年記念事業のエンディングは **パネルディスカッション！！**

「災害・復興と男女共同参画」～ジェンダーの視点からのまちづくり～

三重大学人文学部准教授の石阪督規さんをコーディネーターに、関西学院大学災害復興制度研究所研究員の山地久美子さん、もりおか女性センター・センター長の田端八重子さんのお2人をパネリストに迎え、パネルディスカッションを開催しました。(当日は、台風12号への防災対応のため、予定していた本市危機管理室長は欠席となりました。)

【 田端さんより報告 もりおか女性センターの取り組み“デリバリーケア” 】

3月11日東日本大震災の発生とともに、岩手県盛岡市は停電。津波のことを知ったのは2日後。このとき、「女性センターとして、何が出来るか？」を職員で話し合いました。そして、日常生活を取り戻すには、普段使っていたかための歯ブラシや5枚刃の髭剃りなど、その人なりのこだわりの日用品が必要と考え、民間の強みで「欲しいものを欲しい方に」「顔を見て届ける」を合言葉に、電話一本で物資やサービスを出前する「デリバリーケア」を行うこととなりました。現在も物資を届けるとともに、いろいろな話を聞く心の支援を継続しています。

【 山地さんより報告 防災・災害復興分野の政策決定過程に女性の参画を！ 】

阪神・淡路大震災では男性より女性の死者が1,000名近く多く、しかも、高齢者が多く犠牲になりました。15年以上経った現在も、各地に設置されている防災会議等には女性や高齢者の代表者がほとんどいません。そんな中、政策・意思決定過程への女性の参画拡大の事例として、石巻市が震災復興会議の委員構成に、保育園の園長と民生委員を入れるとともに、市が市内8地区に対し、「地区代表は女性を選出してほしい」と要望を出したことや、鳥取県が関係機関に「女性委員を出してほしい」と手紙を出し、日本銀行がそれに応え、役職付きではない女性職員を委員として選出しているという報告がありました。

【防災・災害復興に女性が“いる”のと“いない”のではどこが違うのか？】

山地さんからは、「男性が仕事に行っているときに災害が起こったらどうなるか？ 守ってくれるのか？」との投げかけがあり、日頃の防災訓練から、男性は消火活動、女性はAEDの訓練など男女で役割を決めるのではなく、女性も男性も同じように訓練することが必要であるとお話いただきました。

田端さんからは、男性の自衛隊員や避難所の運営者に、支援物資として届くMサイズ以外の下着の要望や女の子のサニタリーショーツが手に入らないことなどが言えなかったとの事例を紹介していただきました。これらは、避難所の運営者に女性がいればすぐに気がつくことです。被災者の半分は女性なのだから、運営者には女性を入れる必要があるといえます。

【これからのまちづくりは“総力戦”】

石坂先生から最後に、役割や年齢の上下、男女の問題という枠組みを超えた「総力戦」の仕組みづくりが必要であることと、男・女にこだわらず、地域のために自分は何ができるかを考え、一人ひとりが力を身につけることが、これからのまちづくりにつながるとお話しいただきました。

はもりあ四日市は、この「総力戦」を踏まえ、今後の男女共同参画、そしてまちづくりを考えていきたいと思えます。それとともに、女性の意思決定分野への参画促進を目指し、今後も各方面へ働き掛けをしていきます。



<パネルディスカッションの様子>

8月28日(土)~9月1日(金) ワークショップ

「はもりあ四日市 15 周年記念事業」の期間中、11のワークショップを開催(3つのワークショップは台風の接近により中止)いたしました。その中で、2つのワークショップについて、ご報告いたします。この2つは、市民のみなさんのご参加とともに、市の全ての所属で男女共同参画を推進するために配置している「男女共同参画推進員」および「男女共同参画推進リーダー」の研修としても位置付けて実施しました。

フレンテトーク「男女共同参画のまちづくり」

37名受講

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」所長の柏木はるみさんを講師に迎え、男女共同参画社会の実現に向けて、これまでの世界・日本・三重県の歴史や経緯について、クイズを交えながら、お話しいただきました。

【三重県の固定的役割分担意識は？】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、感同しない人の割合が、国では55.1%、三重県では49.0%で、三重県は国と比べて固定的役割分担意識が強い傾向にあります。

【どれだけの女性が、妊娠や出産で仕事を辞めている？】

女性の労働力率(15歳以上の人口に占める労働力人口の割合)をみると、日本は35歳~40歳を底とする「M字型曲線」を示します。これは、女性が結婚・出産・育児の期間は仕事を辞めて、子育てが一段落してから再就職するというライフスタイルを表しています。三重県では30歳~35歳を底として、この落ち込み方が国よりも大きくなっています。

【女性のチャレンジを応援します！】

はもりあ四日市では、「起業したい」「キャリアアップしたい」などの様々なチャレンジを応援するため、みえチャレンジプラザのキャリアカウンセラーによる「チャレンジ相談」と「適職診断」を毎週土曜日に実施しています。また、再就職準備セミナーなどを開催し、女性の就業を支援していきます。



「男女共同参画めがね」で見るテレビCM

33名受講

NPO法人SEAN 理事長の小川真知子さんを講師として、メディア・リテラシーについて学びました。メディア・リテラシーとは、情報を読み解き活用する能力のことで、メディアから流れる情報をそのまま信じるのではなく、その情報を取捨選択して活用したり、メディアに自分の考えを発信したりするをいいます。

【男女共同参画の視点で情報を読み解く】

1999年に放送されていた実際のテレビCMを見て、CMが描いていた女性像・男性像・子ども像について、服装・役柄・行動・ナレーションなどに注目して、見直すという体験をしました。

例えば、食品のCMでは、女性が調理し、男性が食べる役柄だったり、強壮剤のCMでは、仕事に疲れた男性と仕事に送り出す女性だったり...

私たちは、さまざまな情報の中から、知らず知らずのうちに「男は仕事、女は家事」という固定的役割分担意識や「女の子はやさしく男の子はたくましく」といった「女らしさ、男らしさ」のイメージを身につけています。

【メディアを味方に！】

社会の意識を変えるには、メディアの力が大きく影響します。男女共同参画社会の実現のためには、それがこれからの日本社会に必要なんだという情報をメディアに届け、発信していくことが必要です。



8月28日(土)

チャレンジショップ

手作り品での起業やネットワークづくりを応援する「チャレンジショップ」を開催しました。布やニット小物、アクセサリ、アートフラワー、パンや焼き菓子、マッサージなど17店舗の出店がありました。

また、「みえチャレンジプラザ」より出張していただき、キャリアアップしたい、地域で活動したい、起業したいなど女性のための「チャレンジ相談」や自分にピッタリの仕事を見つける「適職診断」を行いました。



ハンドマッサージ



みえチャレンジプラザ



グラスアート体験



展示

登録グループ

「はもりあ四日市」に登録している43のグループが、普段の活動をか、市民のみなさんに知っていただくためにポスターを製作し、展示を行いました。

手書きあり、写真あり、中には立体的な工夫まで...。いずれも力作ばかりでした。

展示を見た方から、「グループの活動に興味があるので見学してみたい」などのうれしい声もありました。



15年間のあゆみ



「はもりあ四日市」が平成8年8月1日にオープンしてからの活動をまとめて展示しました。「女性センターのオープン」「つどいよっかいち」「映画会」「男女共同参画都市宣言」「条例制定」「さんかくカレッジ」「三重県内男女共同参画連携映画祭」など、市民のみなさんと共に歩んだ15年間でした。



今月のおすすすめ本

今月は、震災に関する本2冊をご紹介します。
この2冊は、「はもりあ四日市」で貸出できます。



『地震から子どもを守る50の法則』

国崎 伸江 著

阪神・淡路大震災の映像に衝撃を受けた新米ママ（現在は危機管理対策アドバイザーとして活躍）が、親子そろって生き延びるための防災について、母親の視点で研究し、まとめた本です。

家庭の中での防災教育の大切さについても触れながら、生活の中で「毎日、少しずつ」取り組める簡単な防災の知恵や避難生活のワザがいっぱいの1冊。



『女たちが語る 阪神・淡路大震災』

ウィメンズネット・神戸 編

阪神・淡路大震災を経験した女性たちの、メディアでは取り上げられることのなかった様々な被災の状況が生々の声で綴られています。犠牲者の多くは、低廉な住宅で生活せざるを得なかった高齢女性であった事実。被災後、真っ先に首を切られた女性パート。「会社」へ行ったきりの夫と、家庭責任を押し付けられた妻。また、避難生活の中での性犯罪の実態。

大震災という非日常を経験した女達が、今の日本社会へ警鐘を鳴らすホンネが詰まった1冊。

今月のキーワード

ジェンダー不平等指数(GII)

国連開発計画(UNDP)は平成22年11月、「人間開発報告書2010」において、新しくジェンダー不平等指数(Gender Inequality Index: GII)を発表しました。

この指数は、その国における人間開発の達成が男女の不平等によって、どの程度妨げられているかを明らかにするもので、「保健分野」「エンパワーメント」「労働市場」の3つの側面から構成されています。

日本は138カ国中12位で、順位が高いほど、人間開発が阻害される要因が少ないと言えます。日本が上位に入っているのは、保健などの優れた分野が含まれている結果と考えられますが、女性の議員が少ないことや賃金格差など男女共同参画において取り組む課題はまだ多くあります。

順位	国名	値
1	オランダ	0.174
2	デンマーク	0.209
3	スウェーデン	0.212
4	スイス	0.228
12	日本	0.273
37	アメリカ	0.400

値は0(完全平等)から1(完全不平等)で表されます。

登録グループイベント情報

11月7日(月) 講演会『おはなし会を楽しくするために～本と子どもをつなぐ～』

県立聾学校・盲学校司書として勤められた経験談を語っていただきます。パネルシアター等の実演を交えた、楽しいお話です。

時 10:00～12:00 所 四日市市勤労者・市民交流センター 定 40名(先着順)

師 海上和美さん(県立聾学校司書) 料 500円 申 電話かFAXで、住所・氏名・ふりがな・電話番号をお知らせください(11月1日締切り) 他 託児あり(10月20日締切り)

問 Can 岡田(電話059-352-3094 FAX059-352-3138)



四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町9-8 本町プラザ3F

TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00～PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml